

5 年生 『いろいろな四角形』の実践を通して

長良西小学校 北嶋 盛久

1 単元名『いろいろな四角形』(5年生)

2 単元について

図形領域に関わって、第5学年の目標は、次の通りである。

(3) 平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について理解できるようにする。

また、多角形に関わる内容は、次の通りである。

C(1) 平面図形の性質

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

ア 多角形や正多角形について知ること。

ウ 図形の性質を見出し、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

本単元のねらいは、「垂直・平行の概念の理解に基づいて図形を観察したり、構成したりすることを通して、基本的な平面図形である台形、平行四辺形、ひし形の構成要素に着目して図形を理解すること」である。これまで子どもたちは、「直線の位置関係の中でも、垂直と平行について学習し、作図する」ことを学習してきた。本単元で大切にしたい中核となる数学的な考え方は、「図形を考察するには、図形の構成要素である辺の長さや位置関係、角の大きさなどに着目して考えていけばよい。」である。また、本単元では、単に図形の学習として扱うのではなく、平面図形のもつ機能に着目して自分たちの身の回りの形をとらえさせ、そのものの形が生活の中のいろいろな場面で役立っていることに気づかせていきたい。

3 研究の重点に関わって

重点1 学習内容からみた単元や単位時間の理想の表現を明確にすること

本時は、「いろいろな四角形」の出口の授業である。本単元で大切にしたい中核となる数学的な考え方は、「図形を考察するには、図形の構成要素である辺の長さや位置関係、角の大きさなどに着目して考えていけばよい。」である。本時は、単元の終末において、身の回りにある身近な物の形に注目させ、単元で身につけてきた図形の見方、考え方をつかってその形のひみつに気付かせていく授業である。つまり、平行四辺形や台形、ひし形など新たに学習をしてきた形が身近に使われていることに気付かせていくことで、四角形の性質を明らかにし、図形に対する関心を深め、今後の学習や生活に活用しようとする意欲をもたせていくことができると考える。

そのためには、単元や単位時間における理想の表現を明確にしていくことが必要である。(本時の指導案参照)



重点2 理想の表現に迫るための単位時間の具体的な手立てを明確にすること

子どもが理想の表現をもちいて追究していくためには、導入において強い課題意識をもたせることが必要である。そこで、知的好奇心を喚起し、強い課題意識をもつために、横に開かない窓と横に開く窓を比較させることで疑問を生み出し、課題意識をもたせる。

また、追究する段階において、実際に窓の模型を用意し操作させ、考えをB3版紙に図や言語を使い表現させた。実物を見て操作させることで図形のなかにある平行や垂直などの辺の関係に着目させることができ、かかせることによって思考と表現を確かに行うことにつながると考えた。

単元の学習の掲示物を、子どもがかいたB3版紙を使い作成することにした。そうすることで、どんな表現をしたらよいかでつまづいている子どもに対して、既習に戻りやすく、なお自分たちが出てきた理想の表現を活用しようという意欲につながると考えた。



(3) 児童の動きや発言など
課題を把握する場面

T：いろいろな窓を見せます。どんな形といたらよいでしょう。(1つずつ写真を提示する)
C：円！ひし形！三角形！五角形！
T：これらは、開かない窓だったり、前に開く窓ですね。では、次に、横に開くことができる窓を見せます。どんな形といたらよいでしょう。(同様に写真を提示する)
C：長方形！長方形！長方形！長方形！・・・あれ、どうして長方形ばかりなのかな？
T：なんだか今日はっきりさせたいことが見えてきたようだね。今日のめあてはどうしますか？
C：横に開くことができる窓は、長方形をしているのはどうしてだろうか。

開かない窓や前に開く窓と横に開くことができる窓を比べられるように提示をしたことによって、子どもに疑問をもたせて、課題化をすることができた。

追究する場面における教師の指導・援助

(台形の模型を手にして動かしているが考えがはっきりともてない子どもに対して)
T：台形だと横に開くことができるんだね。どうしてかな。
C：・・・この辺とこの辺が平行だから・・・。
T：そうだね。向かい合う辺が平行だから横に開くことができるんだね。言い直してごらん。

(平行四辺形の模型を手にして動かしているが長方形との違いを見つけられない子どもに対して)
T：平行四辺形も横に開くことができるんだね。じゃあ、どうして窓は、平行四辺形じゃなくて長方形が多いんだろうね。辺と辺の交わる部分に注目してごらん。
C：・・・そうか。平行四辺形も長方形も向かい合う2組の辺が平行だから、横に開くことができるけど、長方形は、辺が垂直に交わっているから、窓に向いているんだね。

模型を操作させることで、横に開くことができないのは、どうしてかということを実感を伴って理解させることができた。また、指導・援助の中で図形をみるときの視点を与えたり、理想の表現を示して表出させることで、辺の位置関係に着目して表現をし、表現力を高めることができた。

終末の場面について

T：窓には、長方形がいいってことがはっきりしてきたけど、じゃあ、身近なところで台形や平行四辺形が使われているところはありませんか？
C：あるよ。跳び箱を前から見たとき形が台形だよ。
T：なるほど、じゃあ、跳び箱を前から見たときの形は、台形でないといけませんか。C：そりゃそうだよ。もし、台形じゃなくて向かい合う辺が平行じゃない四角形だったら手がうまくつけられなくて跳べないと思います。
C：もし、向かい合う辺が平行でも、長方形だったら倒れやすくなってしまふよ。
T：なるほどね。ほかにも台形でなければならぬものって、みんなの身の回りにたくさんありそうだね。もし見つけたら、先生に教えてくださいね。では、終わります。

5 考察

(1) 本時の指導に関わって

導入の段階において、横に開かない窓と横に開くことができる窓を対比させて提示させたことで、自然に疑問を生み出し、課題化を図ることができた。また、日常生活の中から素材を選び出し、問題にしたことで子どもたちにとって身近な問題として捉えることができ、意欲的に追究活動に向かうことができた。



追究の段階において、模型を用意し、操作させることで図形の性質を捉えて考えることができた。また、追究の段階で本時発揮させたい理想の表現を描いて指導・援助にあたったことで、図形の性質に立ち戻らせながら、指導・援助をすることができ、子どもに理想の表現をつけていくことができた。毎時間の理想の表現を描き指導したことを既習掲示をして用意しておくことで、子どもはどの時間に戻って考えればよいかということがはっきりして、既習掲示を活用し理想の表現をする姿につながった。

終末の段階において、長方形から台形など他の図形に拡張させることで、他の図形の性質や構成要素に目を向けさせ、生活の中でも算数が生かされているということを実感させることができた。また、オープンエンドで授業を終えることで、さらに子どもたちの追究意欲をかき立てることができた。

(2) 改善に向けて

「理想の表現」に迫るために、毎時間の理想の表現を描き単元をすすめてきたが、理想の表現ができない子どももいた。もっと子どもたちが見つけてきた表現を使って理想の表現を全員で共有しながら単元をすすめていきたい。しかし、この取り組みを継続していくことで、「理想の表現」を明確にして、子どもたちの思考力と表現力を育てていきたい。




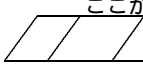
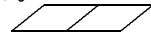

本時の問題の設定にやや問題がある。条件をそろえていきたい。

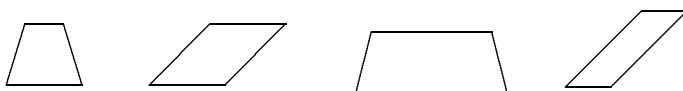


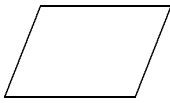
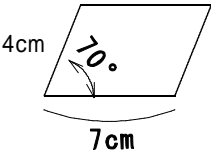
4 本時について (8 / 8)

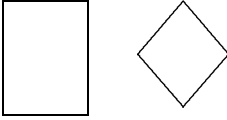
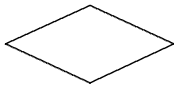
(1) ねらい：窓が長方形であるわけを考えることを通して，生活の中に垂直や平行がうまく使われていることに気づくことができる。

(2) 本時の展開例

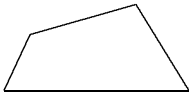
場	学 習 活 動	指 導 と 評 価
必然	<p>1 問題をつかむ</p> <p>いろいろな窓を見せます。どんな形といたらよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円，ひし形，三角形，五角形 <p>横に開く窓を見せます。どんな形といたらよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形！・あれ？どうして長方形ばかりなんだろう？ 	<p>【評価基準】</p> <p>窓の形が長方形になっているわけを考えることを通して，身の回りの図形に関心をもつことができる。</p> <p>関心・意欲・態度</p>
課題	<p>問題(1)</p> <p>どうして，横に開く窓は長方形の形をしているものが多いのでしょうか。ほかの形ではいけないのでしょうか。</p>	<p>児童の学習状況 (B)</p>
	<p>2 課題をもち，追究する</p> <p>横に開くことができる窓が，長方形をしているとよいわけを考えよう。</p>	<p>台形，平行四辺形，長方形などの向かい合う辺が平行な図形は，窓にしたときに横にあげることができると思うことができる。</p>
追	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>円だったら</p> <p>円は，丸くなっていくので，横に開くことができないからだめだと思います。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>三角形だったら</p> <p>三角形は，動かすと下に落ちてしまうからだめだと思います。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ひし形だったら</p> <p>ひし形も横に開くことができないからだめだと思います。</p>  </div> </div>	<p>確実に定着させるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かないと横に開く窓を比較させることで疑問を生み出し，課題意識をもたせる。 ・既習内容を基に考えようとしている子を価値づける。 ・考えがもてない子にはお試しコーナーで実際に操作させながら考えるように促す。
究	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>台形だったら</p> <p>向かい合う辺が平行だから，開くことはできるけど，平行な辺に対して辺が垂直にまじわっていないから全部開かなくて，換気の効率が悪いと思います。</p>  <p>ここが無駄</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>平行四辺形だったら</p> <p>向かい合う辺が平行だから，開くことはできるけど，やっぱり辺が垂直でないから，光が入るところが少なくなり，無駄が出てきます。</p>  <p>ここが無駄</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>向かい合う1組の辺が平行な四角形だったら，横に開くことはできる。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>向かい合う平行な直線に対して，垂直に辺が交わっている。無駄がなくてよい。</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素に着目している発言を価値づける。 ・子どもの意見の中で出ていないものがあれば，提示してよさを味わわせる。 ・ペア交流と振り返りを位置づけることで，学習内容の獲得の自覚を図る。
	<p>3 学習のまとめをする</p> <p>向かい合う1組の辺が平行だから窓を開くことができるし，垂直に辺が交わっているから無駄がない。やっぱり長方形がいい。</p>	<p>系統の一例</p>
振り返り	<p>問題(2)</p> <p>世の中に台形や平行四辺形でないと困るものはないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を横から見た形が台形だよ。向かい合う一組の辺が平行じゃないとうまく跳べないし，長方形だと向かい合う辺の長さが同じになるから，倒れやすくなってしまふよ。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は，今までどうして窓が長方形なのかということ考えたことがなかったけれど，今日の授業で長方形でないと困ってしまうことがよくわかりました。 	<p>小学校5年</p> <p>『垂直と平行』</p> <p>小学校5年</p> <p>『図形の角の大きさ』</p>

1次	つかむ	【本時のねらい】台形、平行四辺形を、向かい合った辺の関係に着目し理解するとともに、それを弁別したり、身の回りから見つけたりすることができる。
1	単元オリ	
場	学習活動	
必然	1 問題をつかみ，いろいろな四角形をつくる。	【評価基準】 平行四辺形や台形に興味・関心をもち，進んでその構成要素を調べようとする。 < 関心・意欲・態度 >
課題	<p>問題(1) 折り紙で作った長方形を切って、三角定規やものさしを重ね、下のようになっているいろいろな四角形をつくりましょう。</p> 	児童の学習状況(B) 辺の長さや対辺が平行かどうかで、仲間わけをすることができる。
追究	2 課題をもち，追究する。	確実に定着させるために
	<p>四角形を仲間わけする方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 向かい合った辺の長さが等しい仲間と，長さが等しくない仲間に分けられます。 向かい合った辺が2組平行な仲間と，向かい合った辺が1組平行な仲間に分けられます。 辺の長さに目をつければいいです。 辺の平行に目をつければいいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業的活動をさせることで、学習意欲を喚起する。 構成要素に目をつけながら，さらにどんな見方をしていくとよいのかや，この単元では，自分たちで作り出した図形についてさらに詳しく調べていく見通しをもたせる。
振り返り	3 学習をまとめをし、図形の定義をする。	
	<ul style="list-style-type: none"> 向かい合う1組の辺が平行な四角形を台形という。 向かい合う2組の辺が平行な四角形を平行四辺形という。 <p>図形の仲間づくりをするには，辺の長さや向かい合う辺が平行かどうか目をつけていくとよい。</p>	
2次	知る	【本時のねらい】台形や平行四辺形の定義に着目し、三角定規を使って平行線の作図とつなげてかくことができる。
2	台形・平行四辺形の作図	
場	学習活動	
必然	1 問題をつかむ。	【評価基準】 平行線のかき方を正しく使って、平行四辺形をかくことができる。 < 表現・処理 >
課題	<p>問題(1) 三角定規だけを使って、台形や平行四辺形をかいてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どうやってかけばいいのかな？ 平行な2直線のかき方は，今までに勉強してきたな。 それを使えば，台形は簡単にかくことができるよ。 	児童の学習状況(B) 平行な直線のかき方を使って，平行四辺形を正確にかくことができる。
追究	2 課題をもち，追究する。	確実に定着させるために
	<p>簡単に平行四辺形をかく方法を考えよう。</p> <p>まず，直線アに三角定規をあてます。そして，もう一つの三角定規をおいた三角定規にぴったり合わせて，そのままスーッと動かします。そうすれば平行な直線が引けますよね？同じようにして，もう一つの平行な直線もかいていけば，平行四辺形を書くことができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平行な2直線が引いてある問題を用意する。 台形は，すぐにかけるということを確認する。 既習掲示より，平行な直線のかき方を想起させながら，作業をさせる。
振り返り	3 学習をまとめ，練習問題に取り組む。	
	<p>平行四辺形をかくには，平行な直線のかき方を使ってかけばよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> この方法を使えば，長方形もかくことができるよ。 	

2次	知る	【本時のねらい】平行四辺形の性質（対辺相等、対角相等）を、測定や比較により、見つけることができる。																	
3 平行四辺形の性質																			
場	学習活動																		
必然	1 問題をつかむ。	【評価基準】 平行四辺形の辺の長さや角の大きさに着目して、その特徴を調べる。 < 数学的な考え方 > 児童の学習状況 (B) 辺の長さや角の大きさを測りながら、その特徴を調べることができる。 確実に定着させるために																	
課題	問題(1) 平行四辺形であることを確かめよう。 																		
追究	・向かい合う角の大きさは、みんな等しくなっているよ。 ・向かい合う辺の長さは同じだったよ。 2 課題をもち、追究する。 平行四辺形の、ひみつをみつけよう。 ・平行四辺形は、向かい合う辺の長さや角の大きさが等しいということがわかりました。 ・隣り合う角同士をたすと、180°になるよ。 ・ほかの平行四辺形でも、いえるかな。 <table border="1" data-bbox="215 884 1018 969"> <tr> <td>性質</td> <td>図形</td> <td>平行四辺形</td> <td>台形</td> <td>長方形</td> <td>正方形</td> </tr> <tr> <td>対辺が等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>対角が等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		性質	図形	平行四辺形	台形	長方形	正方形	対辺が等しい						対角が等しい				
性質	図形	平行四辺形	台形	長方形	正方形														
対辺が等しい																			
対角が等しい																			
振り返り	3 学習をまとめ、練習問題をやる。 平行四辺形は、対辺の長さが等しい、対角の大きさが等しいということがわかった。	・前時に作図した、平行四辺形をもとに討議させていくことで、学習意欲を喚起する。 ・いろいろな方法で追究できるように時間の保障をする。また、一般性を探らせるために、いろいろな平行四辺形で調べるように助言する。 ・展を言語化して、構成要素のどこに着目したのかを明らかにする。																	
2次	知る	【本時のねらい】平行四辺形の性質を生かして、コンパスや分度器を用いて平行四辺形を作図することができる。																	
4 平行四辺形作図																			
場	学習活動																		
必然	1 問題をつかむ。	【評価基準】 コンパスを使って、長さを測り作図することができる。 < 表現・処理 > 児童の学習状況 (B) コンパスを使って、長さを測り取るということを使って、平行四辺形を作図することができる。 確実に定着させるために																	
課題	問題(1) 右の平行四辺形をかきましょう。 																		
追究	2 課題をもち、追究する。 平行四辺形のかき方を考えよう。 ・定規、分度器を使ってかくよ。 ・定規、分度器、三角定規（平行な線）を使ってかくよ。 ・定規、分度器、コンパスを使ってかくよ。 ・平行な直線をかくときに、三角定規が使えるな。 ・コンパスを使うと、わざわざ長さをはかる必要がなく速くできるんだな。 3 学習をまとめ、練習問題に取り組む。 コンパスや分度器を使って、平行四辺形の性質を生かせば、平行四辺形を作図することができる。																		
振り返り		・前時の復習をしながら、本時問題へとつなげ、追究意欲を高める。 ・図形の構成要素に着目して、作図をしている子を価値付ける。																	

3次	つかむ	【本時のねらい】 ひし形を、辺の長さに着目して、正方形と比べ定義することができるとともに、コンパスを用いてひし形を作図することができる。																	
5	ひし形の定義と作図																		
場	学習活動																		
必然	1 問題をつかみ, いろいろな四角形をつくる。																		
	<p>問題(1) 長さの等しい竹ひごを4本つかって、色々な四角形を作りましょう。</p> 																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・正方形ができるよ。 ・平行四辺形のようなかたちもできるよ。 																		
	2 ひし形の定義を知る。																		
課題	<p>辺の長さがみな等しい四角形をひし形といいます。</p>																		
	3 課題をもち, 追究する。																		
追究	<p>ひし形をかき方を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定規と分度器を使ってかくよ。 ・定規とコンパスを使ってかくよ ・定規、分度器、三角定規を使ってかくよ。 ・どれでもできるけど、前の時間にやったようにコンパスを使えば簡単にできるよ。 																		
	4 学習をまとめ, 練習問題に取り組む。																		
振り返り	コンパスを使って、同じ長さを測れば、簡単にひし形を書くことができる。																		
3次	知る	【本時のねらい】 ひし形の性質（対辺が平行、対角相等）を分度器や定規で、測定や比較することによって見つけることができる。																	
6	ひし形の性質																		
場	学習活動																		
必然	1 問題をつかみ, ひし形を作図する。																		
	<p>問題(1) 自由にひし形をかいてみましょう。</p> 																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・向かい合った辺は平行かな？ ・向かい合った角の大きさは等しいかな？ 																		
	2 課題をもち, 追究する。																		
課題	<p>ひし形のひみつをみつけよう。</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>性質</th> <th>図形</th> <th>平行四辺形</th> <th>ひし形</th> <th>長方形</th> <th>正方形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対辺が等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>対角が等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		性質	図形	平行四辺形	ひし形	長方形	正方形	対辺が等しい						対角が等しい				
性質	図形	平行四辺形	ひし形	長方形	正方形														
対辺が等しい																			
対角が等しい																			
追究	<ul style="list-style-type: none"> ・ひし形の向かい合った辺は平行で、向かい合った角の大きさは等しくなっているよ。 																		
	3 学習をまとめ, 練習問題に取り組む。																		
振り返り	ひし形は、向かい合った辺が平行で長さも等しく、向かい合った角の大きさも等しい。																		
指導と評価																			
【評価基準】																			
「ひし形」の用語とその定義や性質が分かる。																			
<知識・理解>																			
コンパスを使って、長さを測り作図することができる																			
<表現・処理>																			
児童の学習状況(B)																			
コンパスを使って、長さを測りとり、ひし形を作図することができる。																			
確実に定着させるために																			
<ul style="list-style-type: none"> ・竹ひごと輪ゴムで四角形を全員に自作させることで、意欲化を図る。 ・実際に紙に切った図形を個人に渡し、操作させる。 ・図形の構成要素に着目して、作図をしている子を価値付ける。 																			
【評価基準】																			
辺の長さや角の大きさなどの構成要素に着目して特徴を調べることができる。																			
<数学的な考え方>																			
児童の学習状況(B)																			
辺の長さや角の大きさを調べ、ひし形の性質を調べることができる。																			
確実に定着させるために																			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時とつなげて自由にひし形を作図させる事で学習意欲を喚起する。 ・角の大きさや辺の長さを測るために三角定規や分度器を用いて調べさせる。 																			

4次	知る	【本時のねらい】対角線の用語とその概念を理解するとともに、台形、平行四辺形、長方形、正方形、ひし形などの対角線の性質を理解することができる。
----	----	--

場	学習活動		指導と評価																							
必然	1 問題をつかみ，直線を引く。		【評価基準】 対角線の構成要素に着目して、それぞれの四角形について対角線の性質について調べることができる。 <表現・処理> 児童の学習状況（B） 対角線の性質についていろいろな四角形で確かめることができる。 確実に定着させるために ・自由に作図させ、自分の形で追求させていく。 （定規・はさみなど用具を自由に選択させていく） ・交わり方や、長さを目をつけて調べさせる。 ・表に納得してまとめるために、色々な形について調べる時間を保障していく。 ・これまでの学習とつなげて考えていかせる。																							
課題	問題(1) 四角形を2つの三角形に分けるには、どのように直線をひけばいいでしょう。 																									
追究	2 対角線の用語を知る。 とおりあっていない頂点を結んだ直線を「対角線」といいます。																									
振り返り	3 課題をもち，追究する。 これまでに作図してきた図形の対角線のひみつを見つけよう。 <table border="1" data-bbox="215 808 1018 1066"> <thead> <tr> <th>性質 \ 図形</th> <th>正方形</th> <th>長方形</th> <th>ひし形</th> <th>平行四辺形</th> <th>台形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2本の対角線の長さ</td> <td></td> <td></td> <td>x</td> <td>x</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2本の対角線が交わった点でそれぞれの対角線が2等分される。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2本の対角線が垂直に交わっている。</td> <td></td> <td>x</td> <td></td> <td>x</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形は、むかい合った部分しか長さが等しくない。 交わり方は垂直にならない。 対角線の性質は、それぞれの四角形によってちがう。			性質 \ 図形	正方形	長方形	ひし形	平行四辺形	台形	2本の対角線の長さ			x	x		2本の対角線が交わった点でそれぞれの対角線が2等分される。						2本の対角線が垂直に交わっている。		x		x
性質 \ 図形	正方形	長方形	ひし形	平行四辺形	台形																					
2本の対角線の長さ			x	x																						
2本の対角線が交わった点でそれぞれの対角線が2等分される。																										
2本の対角線が垂直に交わっている。		x		x																						
	4 学習をまとめる。																									

5次		【本時のねらい】
----	--	----------

場	学習活動		指導と評価
必然	問題(1)		【評価基準】 児童の学習状況（B） 確実に定着させるために
課題			
追究	（本時の学習指導案参照）		
振り返り			